

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年1月16日

協議会名:新城市地域公共交通会議

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
豊鉄タクシー株式会社 西部線 (地域内フィーダー系統)	川田原公民館 ~新城東高校	・利用促進に期待が持てるため、地元から要望のあったバス停新設に向けた調整を実施(継続中) ・自治振興事務所担当職員との情報共有・情報交換の実施。	A 市内で最も沿線人口・65歳以上共に最多となる西部地区本路線は、市中心部の市民病院などへの通院や買物等に出かけるための重要な路線となっている。事業は、計画どおり実施できた。	B ①利用者数 目標4,534人/実績3,844人 →達成度85% ②収支率 目標12.86%/実績8.11% →達成度63% ③利用者の満足度 目標1.16/実績1.11 →達成度▲0.05 ・主たる利用者 高齢者 ・利用者数の推移 3,844人(本年度)-4,161人(前年度)・・・▲317人	この路線の利用者は、主に高齢者であり、高齢者が市中心部の病院への通院、買い物に出かけるための路線となっている。今後は高齢利用者の利便性向上と新たな高齢利用者の獲得のため、バス停の新設や地元から要望が出されている路線延長の検討を進めたい。その際地域・利用者を交えいつまでも利用していただける路線とするため、「西部線を守り育てる会」での協議や自治振興事務所と連携を図っていききたい。
新城市 塩瀬線 (地域内フィーダー系統)	上島田 ~大海駅		A 小中学生の毎日の通学の足として、また高齢者の通院や買物の足として適切に運行ができた。また、他の路線との接続を考慮し、市中心部への利便性を確保することができた。	A ①利用者数 目標5,351人/実績5,722→達成度107% ②収支率 目標9.23%/実績9.87% →達成度106% ③利用者の満足度 目標1.02/実績1.04 →達成度+0.02 ・主たる利用者 小学生(73%)、高齢者 ・利用者数の推移 5,722人(本年度)-5,287人(前年度)・・・435人(小学生利用者 14人(本年度)/12人(前年度)) ※子供を除くと 1,545人(本年度)-1,832人(前年度)・・・▲287人	引き続き『布里田峯線(塩瀬線)を守り育てる会』を開催し、沿線住民が利用しやすい路線を目指す。28年4月の4小学校の統合後には、中学生と高齢者が主な利用者となることから、中学への通学利便性の向上、高齢者の外出に十分配慮した路線・時刻を検討する。
新城市 つくであしがる線 (地域内フィーダー系統)	診療所~診療所 (曜日ごと路線が異なる循環運行)	・自治振興事務所担当職員との情報共有・情報交換の実施。	A 各集落の生活を維持するために欠かせない路線であり、地域の生活を支えるための運行を実施することができた。	B ①利用者数 目標1,908人/実績1,181→達成度62% ②収支率 目標5.34%/実績3.03% →達成度57% ③利用者の満足度 目標1.20/実績1.20 →達成度±0.00 ・主たる利用者 高齢者 ・利用者数の推移 1,181人(本年度)-1,620人(前年度)・・・▲439人	路線の主な利用者は通院・買物を目的とした高齢者であり、各集落を週に1度以上通るフリー乗降であるため、高齢者から「家の前で乗れ都合がいい」との声が多い。沿線人口の減少傾向は止まらず、利用者減少の最大の要因になっていると考えている。一方で高齢化率は40%を超えていることから、今後益々増える高齢者が、マイカーに頼らずとも安心して通院等ができるように、バス利用へのPRを積極的に行い新たな利用者の獲得を目指す。
新城市 中宇利線	新城東高校 ~小畑		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数 目標55,182人/実績51,476→達成度93% ②収支率 実績31.76% ③利用者の満足度 1.07 ・主たる利用者 小学生(73%)、高齢者 ・利用者数の推移 51,476人(本年度)-49,554人(前年度)・・・1,922人(小学生利用者 97人(本年度)/96人(前年度)) ※子供を除くと 16,556人(本年度)-14,994人(前年度)・・・1,562人	小学生の輸送を主な目的としており、一般の利用者数は全体の27%程度となっている。通学時間帯以外におけるバス利用の促進方を検討し、通院・買物に便利な路線としていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新城市 吉川市川線	新城市民病院 ～吉川	・自治振興事務所担当職員との情報共有・情報交換の実施。(登校時間に配慮したダイヤ検討)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数 目標11,112人／実績10,237→達成度92% ②収支率 実績11.30% ③利用者の満足度 1.05 B ・主たる利用者 小学生(70%)、高齢者 ・利用者数の推移 10,237人(本年度)-10,108人(前年度)・・・129人 (小学生利用者 20人(本年度)／19人(前年度)) ※子供を除くと 3,037人(本年度)-3,268人(前年度)・・・▲231人	小学生の輸送を主な目的としており、一般の利用者数は全体の30%程度となっている。通学時間帯以外におけるバス利用の促進方策を検討し、通院・買物に便利な路線としていく。
豊鉄タクシー株式会社 北部線	緑が丘 ～新城郵便局	ルートを延長し、小学校の下校時間に配慮したダイヤに変更。またバス停(復路側)を新設。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数 目標10,685人／実績9,512→達成度89% ②収支率 実績15.48% ③利用者の満足度 1.13 B ・主たる利用者 小学生(48%)、高齢者 ・利用者数の推移 9,512人(本年度)-9,280人(前年度)・・・232人 (小学生利用者 13人(本年度)／12人(前年度)) ※子供を除くと 4,920人(本年度)-5,689人(前年度)・・・▲769人	小学生の輸送が48%を占め、一般の利用者数は全体の52%となっている。市中心部へアクセス可能な路線であることから、通学時間帯以外のバス利用促進向上のためのPRを行っていく。
新城市 秋葉七滝線	本長篠 ～向久保	『秋葉七滝線を守り育てる会』を2回(26年5月・7月)開催し、小中学生の通学時間に配慮したダイヤ等に関する協議を実施。(26年10月から増便・ダイヤ変更)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数 目標14,933人／実績10,944→達成度73% ②収支率 実績15.33% ③利用者の満足度 1.05 B ・主たる利用者 小中学生(76%)、高齢者 ・利用者数の推移 10,944人(本年度)-13,161人(前年度)・・・▲2,217人 (小中学生利用者 19人(本年度)／25人(前年度)) ※子供を除くと 2,645人(本年度)-3,509人(前年度)・・・▲864人	小中学生の輸送が76%を占め、一般の利用者は24%程度となっている。地元住民が調査研究した結果を受け26年5月・7月に「秋葉七滝線を守り育てる会」で協議を行い、平成26年10月から時刻変更・1便増便を実現。今後も通学利便性の向上に努め、一般利用者の声も反映できるように、地元住民と共に考えていく。
新城市 布里田峯線	玖老勢 ～稲目トンネル口		A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数 目標5,331人／実績3,830→達成度72% ②収支率 実績8.81% ③利用者の満足度 1.03 B ・主たる利用者 小中学生(95%)、高齢者 ・利用者数の推移 3,830人(本年度)-4,468人(前年度)・・・▲638人 (小中学生利用者 12人(本年度)／13人(前年度)) ※子供を除くと 210人(本年度)-253人(前年度)・・・▲43人	この路線は鳳来西小学校スクールバスとしての役割も担っており、児童・生徒輸送を最優先に考える必要があるが、28年4月からは沿線の小学校が統合され、主たる利用者が中学生と高齢者になる。引き続き「布里田峯線(塩瀬線)を守り育てる会」を開催し、地域住民がより利用しやすい路線となるよう、住民と共に考えていく。
新城市 長篠山吉田線	本長篠～ 郷ヶ平～田沢	自治振興事務所担当職員と連携したニーズ把握の実施。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	①利用者数 目標20,306人／実績16,159人→達成度80% ②収支率 実績31.21% ③利用者の満足度 1.08 B ・主たる利用者 小中学生(81%)、高齢者 ・利用者数の推移 16,159人(本年度)-16,767人(前年度)・・・▲608人 (小中学生利用者 37人(本年度)／42人(前年度)) ※子供を除くと 3,109人(本年度)-1,815人(前年度)・・・1,294人	主な利用者は鳳来中部小学校、鳳来中学校の児童生徒だが、通院・買物・通勤を目的とした一般利用者もいる。利用者の多くは本長篠BTを経由して新城方面を目的地とするが、竹平バス停から遠鉄バス洪川線を利用することで、浜松市中心部との往復が可能となる。浜松市への『玄関口』としての一面もPRし、バス接続にも配慮したい。 また、自治振興事務所担当職員から、黄柳野から吉川を経由して新城地区への移動を望む声の報告がされた。小学校統合により利用者が中学生より上の方となったため、実情に合った運行経路を模索したい。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い) の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新城市 本長篠海老線	本長篠 ～海老		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数 実績5,028人 ③利用者の満足度 1.05 ・主たる利用者 小中学生 ・利用者数の推移 5,028人(本年度)-6,565人(前年度)・・・▲1,537人	鳳来中学校、鳳来寺小学校の生徒児童の通学の足として登校日のみの運行を行っている。満足度調査における不満な要素の解消に努めていく。
新城市 作手線	新城富永 ～作手高里		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数 目標43,305人／実績39,745人→達成度92% ②収支率 実績25.23% ③利用者の満足度 1.00 ・主たる利用者 高校生、高齢者 ・利用者数の推移 39,745人(本年度)-40,423人(前年度)・・・▲678人	作手地区と新城地区を結ぶ重要な路線であり、平成22年10月からはそれまでの距離制の運賃制度からゾーン制に切り替え、増便も行い利便性を高めた。主に高校生の通学や高齢者の通院・買物に利用されている。アンケート調査の結果なども参考にしながら、満足度の高い路線となるよう努めていく。
新城市 守義線	鳴沢橋 ～診療所前		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ①利用者数 目標4,995人／実績3,457人→達成度69% ②収支率 実績5.72% ③利用者の満足度 1.15 ・主たる利用者 小中学生(53%)、高齢者 ・利用者数の推移 3,457人(本年度)-4,190人(前年度)・・・▲733人 (小中学生利用者 9人(本年度)／9人(前年度)) ※子供を除くと 1,621人(本年度)-2,720人(前年度)・・・▲1,099人	作手中学校の生徒輸送が53%を占める他は、通院・買物を目的とした一般利用者となっている。一般利用の多くは高里地区内の診療所と買物を目的地としているが、高里バス停から作手線に乗り換え新城地区へ向かう利用者もある。作手中学校の生徒数減少により利用者数は減少傾向にあるが、通院・買物の用に供する高齢者に向けたPRを実施し、引きこもることなく外出支援の一助となるバス路線を目指したい。